うきはの自然の恵み
うきは

はじめに

「うきはテロワール」と名付けられた独特の風土からなる「うきは市」には、様々な生きものが生育・生息し、多様な生態系が成り立っています。私たち人間も生態系の一部であり、先人から受け継いできた私たちの営みは、知らず知らずのうちに生物多様性の恩恵を受けています。多様な生態系と私たち人間の営みが織りなす世界は、地域独特の景観を作り出し、地域の魅力となっています。

このパンフレットを通して、生物多様性の恵みを再確認し、うきは市が持つ生物多様性の魅力を発信するとともに、市内外の皆様が、うきは市の生物多様性に興味を持つきっかけになれば幸いです。

もくじ

01 地域のこえ

02-03 生物多様性ってなぁに？

04-05 うきは市の環境と生きもの

06-15 うきは市の生きもの
- ●植物
- ●哺乳類、鳥類
- ●両生類、爬虫類
- ●昆虫類
- ●魚類、底生動物

16-17 生きものの恵みと人々の営み

local voices

地域のこえ

うきは市にお住いの方々が
普段感じていること。

地域の皆さんの声がきっかけとなり
生物多様性の取り組みが始まりました。
頂いた思い、希望をもとに、これからも
皆さんと一緒に取り組んでいきます。

山間部の人口減少などで、人と動物がすみ分けてきた境界線はなくなりつつあります。その崩れたバランスを狩猟を通して取り戻し、ジビエ肉として「いのち」を大切につなぎながら、人と動物が共存できる環境を守っていきたいと想っています。

地元猟師の方

昔はウナギが捕れましたが今はいません。アカギューという魚や、センブリという薬草も見なくなりました。子どもの頃にいた生きものがいなくなり、時代の流れを感じています。

柿の収穫時にイノシシが寄ってくるのですが、柵をしたら効果がありました。

災害復旧の際に、自然環境に配慮した取り組みをしてほしいと思いました。

地元農家の方

下水道が整備され水辺環境が良くなりホタルが戻ってきました。

生態系の変化で、今まで山で生活していた動物が山から下りてきている気がしています。

アライグマが数年前から出て農業被害にあって困っています。昔からいるイノシシに加えて、最近ではニホンジカも出てくるようになりました。

地元農家の方

私たちの住む小塩ではホタルが多様な活動の核となっています。

これからも、ホタルを見守られるように環境整備、「ホタルの里小塩」の周知活動を広め、その成果として、定住・交流人口の増加、農産物のブランド化による高収益化など、環境と経済を連携させ、10年・30年先も人と生きものが共生する山里でありたいものです。

小塩地区自治協議会 佐藤 景一 会長

私達は、一年中何度も同じ道を通りますが、ベテランのガイドでも昨年初めて見たという植物があったり、季節や天気によって違う鳥や虫が見られたりします。このように、うきはの山に様々な生きものが暮らしているのは、森林や周辺の田畑を手入れされている地域の方々のおかげだと思っています。

多くの方に森林セラピーを体験してもらうため、これからもこの環境が維持されることを願っています。（松田尚美）

うきは市癒しの旅先案内人
森林セラピーガイドの皆さん

うきは市は自然豊かで癒されます。動植物を観察する場所が増えてほしいし、体験会のような催しがあるといいなぁと思います。

移住者の方

うきはの自然が気に入って移住してきましたが、予想以上に身近に生きものを感じられる生活を送っています。近くの森に夜行性のムササビやフクロウなどがすんでいて、賑やかな夜を楽しんでいます。

隣の田んぼにナマズやドジョウが当たり前のようにいて、庭には九州の平地で見られるカエルをほぼ全種見ることができます。初夏は網戸にホタルがとまり、夏は縁側で猛禽類のサシバも観察できます。自然豊かな環境の中で、子育てすることができて、移り住んで大正解でした。

移住者のご家族

最近はタガメの姿を見なくなりました。川や池の小魚、小動物の中には絶滅している種もいるのではないでしょうか。絶滅してしまった生きものを調べてもらいたいと思っています。

市内在住の方